

学校教育目標	かがやく子 ～今も 未来も～ 明るい子 元気な子 学ぶ子
目指す学校像	子ども一人ひとりの可能性を伸ばし、自立と社会参加を目指した力を育む学校

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた個別最適な学びと協働的な学びの充実(学力向上) 2 将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成する(子どもの発達) 3 学校と家庭、地域、関係機関と連携・協働した学校づくり(地域とともにある学校づくり) 4 安心・安全な学校生活のための教育体制や環境の整備(教育環境の整備、安心・安全) 5 特別支援教育の専門性を向上し、チームで取り組む人材育成(教職員の資質向上)
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○個別の指導計画を踏まえた指導を行っている。学校課題研究では、「児童生徒がキラリとかがやく授業づくり」を目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のさらなる充実に向けて組んでいる。 (課題) ○学校課題研究をさらに推進させ、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの推進をしていく必要がある。 ○知的障害教育部門高等部の開設3年目として必要に応じて教育内容の修正をすることが必要である。	・個別最適な学びと協働的な学びの授業実践を行う。 ・知的障害教育部門高等部の開設3年目として教育内容の修正を行う。	①本校独自に作成した「授業評価シート」を活用し、授業づくりや授業改善等を行う。 ②授業において、児童生徒の実態に応じて効果的かつ積極的にICTを活用する。	①保護者アンケートにおいて、授業関連項目のA評価が78%以上となったか。 ②教職員アンケートにおいて、ICT活用に関する項目のA評価が59%以上となったか。	①保護者アンケート関連項目のA評価が72.1%であった。 ②教職員アンケートにおいて、ICT活用に関する項目のA評価が56.4%であった。今年度は新たにデジタルアプリを導入し、企業連携を進めることができた。	A	・今年度の成果と課題を明確にし、次年度の教育活動を更に充実させるよう検証していく。 ・次年度、知的障害教育部門高等部が開設4年目となるため、教育活動について更に啓発していく。参考：R7 知的障害教育部門高等部 入試倍率2.38倍
2	(現状) ○複雑化、多様化する児童生徒の状況を踏まえて、福祉機関との連携等、教育相談体制を整備し、子どもの発達や心のサポートに向け取り組んでいる。 (課題) ○教育活動全体を通じて、人間関係を築く力や自他の生命尊重等、児童生徒の豊かな心を育成していくことが必要である。	・学校運営協議会でビジョンを共有し、地域との連携・協働について協議する。 ・市内に本校の取組や特別支援教育についての情報発信に努める。	①学校運営協議会において、学校、家庭、地域との連携・協働について熟議を行った結果を効果的に発信する。 ②学校、家庭、地域等が連携・協働した新たな教育活動を実施する。	①保護者アンケートにおいて、関連項目のA評価が77%以上となったか。 ②学校、家庭、地域等が連携し、「ひまきプロジェクト」を更に発展させる事ができたか。	①保護者アンケートにおいて、関連項目のA評価が75.4%であった。 ②昨年度から行っている家庭、地域、関係機関等との連携・協働によってひまわりを育てる取組「ひまきプロジェクト」を継続発展させることができた。	A	・引き続き「学校・家庭・地域で連携してできる取組」をテーマに学校・家庭・地域・関係機関が協働できるようにする。 ・引き続き居住地校等との交流及び共同学習の充実を図る。
3	(現状) ○学校運営協議会において、学校、家庭、地域との連携・協働について熟議を行い、挨拶運動や作品展等、充実したかわりをもつことができた。 (課題) ○地域資源を活用した教育活動の充実を図るために、地域との連携・協働体制の整備が必要である。 ○地域の特別支援教育のセンターとして、本校の取組について情報発信の更なる充実が必要である。	・考え得るリスクについて未然防止と危機管理体制の確立を行う。 ・児童生徒一人ひとりの障害の状態に応じた教育支援体制の充実を図る。	①ヒヤリハット事案の蓄積と分析により検討した対応策を全教職員で情報共有する。 ②毎月の校内の安全点検を実施するとともに、発見した危険箇所については迅速に対応する。	①危機管理委員会においてヒヤリハット事案を分析し、全教職員に傾向と対応策を情報共有することができたか。 ②保護者アンケートにおいて、安全の関連項目A評価が88%以上となったか。	①危機管理委員会を学期1回開催し、ヒヤリハットの事案について毎回、情報共有を図ることができた。また、新たに職員室掲示板を作成し事案について情報共有できた。 ②保護者アンケート関連項目のA評価が80.3%であった。	B	・引き続きヒヤリハットや想定されるリスクを情報共有することで、事故の未然防止を図っていく。
4	(現状) ○学校全体で事故防止に努めている。ヒヤリハット事案については必ず全教職員で情報共有をしている。 ○主治医作成の指示書をもとに、看護師と担任が連携して安全な医療的ケアの実施を行っている。 (課題) ○安全で健康な生活を送れるように教育体制と環境整備を進める必要がある。 ○児童生徒の状態に応じた組織的な教育支援体制のさらなる充実が必要である。また、職員間の報告・連絡・相談・見届けの徹底が必要である。	・特別支援教育の専門性の向上に向け、学び続ける教員を育成する。	①キャリア振り返りシートや特別支援教育専門性向上シート等を活用した対話に基づく研究推奨を行い教員個々の課題研究に取り組む。 ②知的障害教育部門や学部を越えたユニットを構成し、主体的かつ協働的に授業研究に取り組む。	①教職員アンケートにおいて、研修に関する項目のA評価が44%以上となったか。 ②教職員アンケートにおいて、授業改善に関する項目のA評価が42%以上となったか。	①教職員アンケートにおいて、関連項目のA評価が47.3%となった。教員が、特別支援教育の専門性の状態を把握するシートを記入することで、自身が専門性の状況を自己理解できるようにし、主体的に今後の専門性向上について考えられるようにした。 ②教職員アンケートにおいて、関連項目のA評価が47.9%となった。	A	・引き続き、教員が肢体不自由と知的障害の2つの専門性の向上に努めていく。 ・今年度までの学校課題研究を更新し、さらに特別支援教育の専門性の向上に努める。

・「ひまきプロジェクト」は、学校・保護者・地域を繋ぎ、本校のことを他者にさらに知ってもらいきっかけになった。今後も、保護者・地域への啓発を続けるとよい。
 ・地域との連携の一環として、本校を卒業した生徒の居場所づくりとしても、関係機関における児童生徒の活躍の場をさらに増やせるとよい。関係施設としても活躍の機会を設けたい。